

「ものを大切にする」

音楽の時間に、鍵盤ハーモニカを使って学習していたときの話です。多くの子どもが新しい鍵盤ハーモニカを使っている中、お兄さんやお姉さん、近所の人から受け継いだものを使っている子どもがいました。その様子を見て、せっかくの機会なので、話をすることにしました。

「先生は、ものにはみんな命があると思っています。今、みなさんが使っている鍵盤ハーモニカにも命があると思います。それでは、その命が終わるのはいつでしょうか？」と尋ねます。しばらく考えた後、子どもたちからは「使えなくなったとき」「壊れたとき」「音が出なくなったとき」などの発言が出ます。「そうですね。もし、まだ使えるのに捨ててしまったとしたら、命を捨ててしまうことになりますね。」と言うと、子どもたちは大きくなずきます。「もしお家にお兄さんやお姉さんの、まだ使える鍵盤ハーモニカがあって、それをもらったとしたら、その人は鍵盤ハーモニカの命を受け継いだということになります。その人はものの命を大切にしたすばらしい人だと思いませんか？ みなさんも、いろいろなものの命を大切にしましょうね。」と言うと、「分かった!」「大事にする!」という元気な声が上がりました。

そして、もう一押しをします。「新しい鍵盤ハーモニカを使っている人は、新しい命をもらったという人です。大切に使って、もし弟や妹がいればあげられるように、いなくても近所の人に使ってもらえるように、新しい鍵盤ハーモニカの命を大切にしましょうね。」と言いました。「分かった!」また、元気のいい声が返ってきました。

いろいろな家庭があります。家庭環境も経済状況も家庭の考え方も様々です。子どもたちが前向きに学校生活を過ごすことができるように、心を配ることは大切だとつくづく感じました。